

# 四国中央市歴史考古博物館

- 高原ミュージアム -

が完成しました！



## 【開館延期のお知らせ】

4/11（土）に開館を予定していましたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、来館者の方々の健康や安全面を第一に考え、やむを得ず当面の間、延期することとしました。ご理解いただきますようお願いいたします。開館日については決まり次第、改めて市ホームページなどでお知らせします。

問文化・スポーツ振興課 28-6043

## ◆施設概要

既存の「かわのえ高原ふるさと館」と「考古資料館」を統合し、本市の歴史・文化を学び発信する「歴史文化発信拠点施設」として、また学校教育との更なる連携を深めた「教育施設」として整備しました。

- 所在地 川之江町 2217-83
- 構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
- 延べ床面積 2,074.68㎡
- 開館時間 9：00～17：00
- 入館料 無料（特別展示除く）
- 休館日 毎週月曜日・祝日・年末年始



歴史考古博物館の周辺図

- ### ◆施設のこれから
- ◆土居町にある郷土資料館「暁雨館」との両輪で、地域の歴史・文化を体現する施設として、それぞれの施設の特徴ある取り組みを企画していきます。
  - ◆博物館には「実物」があります。学校や教科書では分からない、歴史と文化を記憶した四国中央市（宇摩地方）のオリジナリティを感じることであります。
  - ◆地域のみなさんからのニーズにお応えしながら、地域に根差し、将来を担う子ども達をはじめとして、より多くの方々に愛着を持って頂ける博物館を目指します。

- ### ◆施設名改称のわがこ
- この施設は、元「かわのえ高原ふるさと館」の建物を「展示棟」、新築部分を「収蔵棟」と位置づけ一体的に運用していく博物館施設で、これを機に「四国中央市歴史考古博物館」高原ミュージアム」と名称を変更しました。この新名称には三つの願いが込められています。
- 「かわのえ」地域に限定されることなく、市内全域の市民のみなさんに愛される施設となること
  - 博物館を利用される方に、施設の理念を分かりやすく伝えること
  - 施設の由来を継承すること

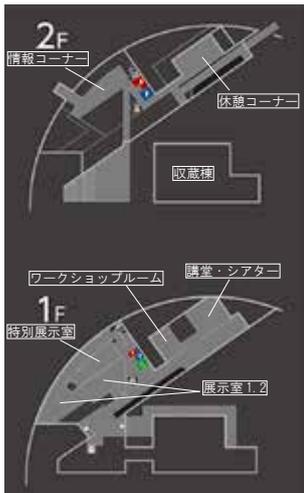
# 展示棟

【ローラー】

◇既存施設の解放感を損なわず、一部に壁や天井を設け、展示室の環境を整えました。  
 ◇正面玄関から展示室へと向かいやすい造りにしました。



【講堂・シアター、ワークショップルーム】  
 ◇さまざまな用途に対応することができる部屋を整備しました。



【特別展示室】  
 ◇展示室よりさらに高規格な展示空間を創出します。  
 ◇これまで展示が適わなかった貴重な文化財なども展示することができます。



【展示室】  
 ◇吹き抜けだった場所に壁や天井を構築し、展示環境を改善しました。  
 ◇既存の壁を展示演出（プロジェクターなど）に活用できます。

# 収蔵棟



【遺物整理室】  
 ◇搬入した資料の一次処理を行います。  
 ◇来館者のみなさんが、外側から作業の様子を見学することができます。



【特別収蔵室】  
 ◇棚や中天井の増設など、将来の収蔵量の増加にも対応します。  
 ◇特別収蔵室は施設内で最も安定した環境を構築し、あらゆる資料の収蔵に対応可能です。これまで取り扱いができなかった貴重な資料も収蔵可能になりました。



【考古収蔵室】

# 展示予定の文化財



馬具（鏡板）・経ヶ岡古墳出土  
 四国縦貫自動車道建設（三島川之江IC付近）に伴い、発掘調査を行った際に出土した馬具。「鉄地金銅張」で、錆により往時の輝きは失われているものの、一部には表面に貼られた金箔を残しています。



銅鐸・上分西遺跡出土  
 愛媛県で唯一の出土銅鐸。「紐」と呼ばれる吊り手部分だけが埋められた状態で出土。これまでは資料保護のためレプリカを展示していましたが、展示環境が整備されたため、実物を初公開します。



『馬評』と書かれた銘須恵器  
 「宇摩郡」の前身ともいわれる「馬評」の存在を示唆する資料。四国中央市のルーツ「宇摩」を知るうえで重要な資料です。開館を記念して、岡山県立博物館から実物を借用して展示します。